

第 2 回「今しかできない旅がある」若者旅行を応援する取組表彰

受賞した取組の評価されたポイント

1. 観光庁長官賞（若者の旅行振興に多大なる貢献をした取組）

取組名称	社会問題発信型のプラットフォーム：リディラバのスタディツアー
受賞者	一般社団法人リディラバ、株式会社 Ridilover
取組概要	地域活性化など地域の課題解決をテーマとしたスタディツアーを旅行商品化。全国約 600 人のボランティアの運営スタッフとともにツアーの企画、現地調整等を実施。
審査委員会 講評	地域の課題解決をテーマとした旅行企画ということで、一般的な旅行に対する関心が薄い若者の参画意欲も高める取組であり、多数の若者を旅行に送り出す需要創出効果の大きさと、旅行後の移住定住や人材育成にもつながる点を評価。また、きめ細かい作業手順の徹底やチェック体制によって、ボランティアによる運営の質の向上を図っている。

2. 奨励賞（規模の大きさに関わりなく、革新的で将来的な発展が見込める取組）

取組名称	若旅 in やまぐち 山口県内オンリーワン企業訪問と観光魅力発見の旅 3 日間
受賞者	株式会社西京銀行、広島経済大学
取組概要	交流人口、定住人口の増加を目的に、全国の大学生を対象とした県内企業視察と観光を組み合わせたツアーを実施。
審査委員会 講評	学生の関心事項である就活をテーマに、地元の企業や大学と連携したツアー造成を行い、若者に来てもらうだけではなく、地元企業への就職や地域での定住にもつなげていく取組として評価。また、金融機関による取組としても新しい。更なる集客を図るため、より魅力的な PR 戦略が練られることを期待する。

取組名称	山頂 café プロジェクト ～後世に伝えたい山旅がある～
受賞者	山頂 café ～ビギナーのための登山サークル～
取組概要	若者に山歩きの良さを伝えるため、満 40 歳未満かつ登山歴 3 年未満の「若手ビギナー」に特化したサークルを全国規模で作成し、旅行会社と協力して全国の山を旅行することに加え、ビギナー向けの山の選定などの情報発信等を行う取組。
審査委員会 講評	SNS による情報発信など、山歩きの良さを積極的に PR することで、若者の登山旅行の需要創出に結び付けている点を評価。

取組名称	農都交流プロジェクト in 飯豊町 ^{いいでまち}
受賞者	株式会社 JTB コーポレートセールス
取組概要	都市に所在する企業の若手社員や大学生が、農村地域でのワークショップや農作業、イベント運営サポート活動など様々なプログラムを造成し、実際に若者が農山村地域を訪問する機会を創出するプロジェクト。
審査委員会 講評	若者が農村を訪れることで地域活性化につなげるという効用だけにとどまらず、都市からの参加者自身の成長や社会学習といったメリットを重視し、農と都の Win-Win の関係構築を目指している点を評価。飯豊町での実証を踏まえ、全国展開を目指す際には、リピーター増加につながる仕組みが構築されることを期待する。

3. ブロック賞（地方ブロック毎の取組のうち優れたもの）

【東北ブロック】

取組名称	スポーツ YUKIYOSE
受賞者	特定非営利活動法人トップスポーツコンソーシアム秋田
取組概要	地元では日常的に行っているやっかいな除雪作業に、制限時間内での除雪量を競うという競技性を加え、誰でも参加できる冬の新しいスポーツツーリズムイベントを開催。
審査委員会 講評	豪雪地帯での除雪作業が大きな社会問題になっている中で、除雪をスポーツとして捉える発想は新しく、旅行者も楽しみながらボランティア活動ができる点を評価。今後は、開催頻度の向上やイベント内容の充実を図るとともに積極的な魅力発信により参加者が増加することを期待する。

【関東ブロック】

取組名称	LunchTrip
受賞者	LunchTrip
取組概要	東京に所在する各国の大使館や異国レストランを巡り、その国のランチを食べながら、エキスパートにその国の魅力を語ってもらうこと等により、その国のリアルな姿を学ぶイベントを定期的で開催。
審査委員会 講評	数多くの参加者に各国の真の魅力を伝える取組であり、その国への海外旅行を誘う効果がある点を評価。これまでに参加者が 3000 人を超えていること、また 50 か国以上の国を取り上げていること等の実績を評価。フライトアテンダントと乗客が共に旅をするというシナリオ設定からも、旅の楽しさを伝えている。

【北陸信越ブロック】

取組名称	大学ゼミ合宿誘致・コーディネート事業
受賞者	特定非営利活動法人金沢観光創造会議
取組概要	首都圏を中心とする大学生のゼミ合宿の誘致を推進。合宿を通じて、地元の文化、歴史、美術などを学んでもらう取組。
審査委員会 講評	学生のニーズに対して、地元の各分野に精通した人材や魅力的な素材を取り入れ、他では体験できないようなプログラムを提供する点や、地元の奥深い魅力を知ってもらうことにより、将来的にリピーターにつなげようとする点を評価。

【近畿ブロック】

取組名称	さんふらわあ若者船旅推進プロジェクト
受賞者	株式会社フェリーさんふらわあ
取組概要	観光マーケティングを学ぶ大学研究室と連携し、フェリーによる旅の魅力の情報発信や若者目線による船旅の企画を実施。
審査委員会 講評	経済的な理由等から若者の船旅が減少傾向にある中で、比較的安価な旅が可能なフェリーに着目し、学生の視点により人気のキャラクターとのコラボレーション等を実施し、船旅を促進している点を評価。

【中国ブロック】

取組名称	スポーツによる地域活性化プロジェクト
受賞者	広島経済大学興動館 スポーツによる地域活性化プロジェクト
取組概要	多くのトップスポーツチームが所在する地域性を活かし、大学生が中心となり、スポーツの応援等の企画・実践や、情報発信、選手との交流イベント等を実施。
審査委員会 講評	野球、サッカー、バレーボール等、多様なスポーツを対象として、地域が一体となってスポーツツーリズムへの関心の醸成を図っている点を評価。

※北海道、中部、四国、九州、沖縄については、該当無し。

4. 審査員特別賞（申請外の取組で、審査委員から特に推薦のあったもの）

取組名称	サムライカレープロジェクト
受賞者	サムライインターナショナル
取組概要	世界で通用する日本人ビジネスパーソンの育成を目的に、カンボジアで若者が起業体験（カレー屋）をする1～4週間のツアーを運営。
審査委員会 講評	海外での起業を体験できるシステムは、斬新である。取組を開始したばかりということで、まだ実績は少ないものの、若者が海外に向けて積極的にかかるきっかけになる取組として、将来的な発展を期待する。参加者がツアーに出発する前に、起業や経営に関する事前研修を受講できる仕組みが作れるとなお良い。